

平成24年度 鳥取県PTA協議会教育懇談会報告書

研修委員会

1、日時 平成25年1月12日(土) 14:00~17:20
(情報交換会 17:30~19:30)

2、場所 白兔会館 2階 「飛翔」 「うぐいす」 「せきれい」

3、参加者 鳥取県教育委員会事務局(18名)
鳥取県PTA協議会役員 郡市小中PTA評議員等(44人)

4、日程

時間	会議名	内容 (テーマ)	会場	運営
14:00 ~15:30	小グループ討議	Aグループ ①学校再編成及び学校評価制度・教員評価制度について ②家庭教育・PTAの活性化について	うぐいす	鳥取市小P連
		Bグループ ①家庭教育・PTAの活性化について ②健康を体力作りについて	せきれい	鳥取市中P連
		Cグループ ①健康を体力作りについて ②いじめや不登校などの子どもの人権について	飛翔	八頭郡小P連
		Dグループ ①いじめや不登校などの子どもの人権について ②学校再編成及び学校評価制度・教員評価制度について	飛翔	八頭郡中P連
15:40 ~17:20	全体懇談会	1、あいさつ 横山 県PTA協議会会長 横濱 県教育委員会教育長 2、協議 ①小グループ討議内容発表 ②意見交換	飛翔	司会 教根研修委員長 会場 岩美小中P連
17:30	情報交換会			

5、会議内容

グループ討議概要

1、学校再編成及び学校評価制度・教員評価制度について

学校統合実態

- 倉吉 小学校の統合問題 小P連では棚上げ状態
- 西部(岸本小) 大山町の分校を統合 PTAも了承(2~3年をかけて統合に至る)
- 河原 散岐小 1学年15人 校舎改築のおり 残したい為に新築
- 三朝町 小規模校 複式学級 中学校で集団活動に戸惑い
- 琴浦町 26年度8校→5校に統合 適正規模1学年2学級70人
- 湖南学園 小中一貫校 幼稚園~中学校までの12年間 集団が変わらない
- 鳥取市 佐治中と用瀬中の統合
- 八頭郡 統合
- 智頭町も統合後のつながり PTAの取り組み 行政の取り組み
- 日南小学校1校へ統合 岩美町 小学校9→3 中学校3→1
- 高校で同じ状態 日野高校 教育委員会と日野三町との協議会

現状・課題その他

- ・統合した後も地域とのつながりが大
- ・世代間の分断 若い世代は統合賛成(ライフスタイルの変化)
- ・廃校になった学校の利用
- ・中学校の部活動種目の減少 生徒数の減少
- ・バス通学となると子どもの姿が地域になくなる
- ・教育効果で少人数では難しい部分が出てきている
- ・発表会・運動会を合同で
- ・財政効果としての問題

- ・学校再編でPTAも統合
- ・地域のエゴ コミュニティを衰退させたのは地域
- ・地域おこし コミュニティとしての学校
- ・小・中学校の統廃合については市町村の決定を承認するが指導はない
- ・少人数学級 35人学級（中1は33人・小1・2年は30人）
- ・鳥取県は単県で、学年が上がっても少人数学級制をとっている

2、家庭教育・PTAの活性化について

家庭教育について

- ・地域を巻き込む

お節介
子どもを叱れる
話かけをする

} 大人 保護者同士のつながりを密にして子どもに話かけをする

PTAの活性化

研修会参加率が低い

- ・人権研修会を開催する時、何日かに分ける・内容を4パターン設けどれかに必ず出てもらうようにしている
- ・90%以上の出席率になっている
- ・PTAの交流を増し仲間を増やす。
- ・年2回を1回にし、参加を増やした
- ・歓送迎会の保護者の参加が少ない
- ・pとTの信頼関係を築く
- ・PTAと保護者会は違う

役員のなり手が少ない

- ・決め方としてくじ引き、勝手になっていた
- ・前年のことにとらわれず自由にする（活動内容）
- ・会長が各部に自由に活動してもらうように促す

3、健康と体力作り

- ・運動する子としない子の二極化、個人においても、オールマイティでなく単一的なものに飛び抜ける傾向がある
- ・体力は親世代より落ちている。
- ・スポ少では、皆熱心に活動している。
- ・スポーツ少年団が勝利至上主義になっているところがある。
- ・スポーツ少年団の監督から「試合に差し障るので体育の授業では～するな。」などと言われたことがある
- ・極端な例では、運動会の日にスポ少の試合をいれてトラブルが起きている
- ・スポ少の指導者のモラルの低下が見られる
- ・学校とスポ少との連携が取れていない

県の対応

個人、全体においても平均的に体力を向上させるため、25年度から体力検査の結果を現状の10%から全部の子どものものを報告し、その結果をふまえ課題を見つめ改善の方法を考慮して行く
スポーツのモデル校の設置

学校は子供のスポ少への加盟の有無を把握をして、より良い連携をはかるようにする
スポ少の指導者を対象にした研修会を企画。→スポーツドクターを講師に→加熱による弊害をなくす為に。スポーツの目的→勝つためだけでなく、心身を鍛えるため
体力づくりには家庭での関わりも大切なので、PTAからも働きかける
ノロウイルスなどの流行性感染症について→学校、給食センター他で予防の対応

4、いじめや不登校など子どもの人権について

人権研修会等に関して

- ・大人に向けての発信をどうするのか（小地域懇談会で取り上げる？）
- ・自治体毎に懇談会が行われ、取り扱われる案件も様々で小地域懇談会での案件としてはなかなか

- ・世帯主が家族を代表して出席する。
学校との連携がなくそれぞれが別の動きをしている
- ・PTA世代の手前の世代の参加が少ない（動員をかけても世帯主参加のため）

いじめ

- ・問題について話し合うにあたり教育現場の意見も守秘義務等の関係でなかなか話しづらい
- ・PTA会長が参加する人権の総会などでいじめ問題を案件に取り上げて頂くように提案する
- ・いじめ予防の為の話し合いを行って行きたい
問題解決を話し合うことも重要だが子どもたちをより良い大人にして行く為の話し合いが大切な
- ・何でも話合える親子関係が必要だが、なかなか子どもに聞けない（中学生）子どもも親に言わな
周囲が自分の子どもに限らず、変化を見守ってやる必要がある
- ・起こったいじめに対しての学校の対応
実態確認→PTA役員に報告→保護者への説明
- ・学校の捉え方に疑問を持つこともある。このズレをなくするためにPTAとして何が出来るのか？

色覚検査の廃止について

- ・雇用時の検査が廃止が元となり、検査＝差別につながるので、学校でも検査廃止になった
本人の意志があれば検査を受けるのは自由
- ・本人の自覚がないまま、就職時に色覚異常が判明する
- ・学校の授業 色覚異常用のチョークの使用
緑の黒板→ホワイトボード化（実際にはコスト・見やすさの面で難
- ・教員側の配慮を行き渡らせる

全体懇談会

1、グループ討議の報告

2、質問・協事項

■ 学校再編について

- ・教育論と経済論のメリットとデメリット
- ・子どもの数が減少、まだ減少していく
- ・質の高い教育にはある程度の人数が必要
- ・教育環境の整備（質を上げる）が一番重要（横濱 教育長）
- ・スクラム教育で中学校と高校の連携があまりないのでは？ →

取り組みはしている（小学校と中学校ほど）

- ↓
- ・2/7 倉吉未来中心で県教育懇談会あり！

- ・県外からの入学者について（資料P3） → 地域と学校が連携して入学者に魅力のある学校とす

■ 学校評価制度について

- ・結果を公表することになっている（資料P6）

■ 教員評価制度について

児童の評価は入っていない（高校では生徒の意見アンケートをするが、評価には盛り込まれない）

